

# 付 属 資 料

LETCO（ハノイ工業大学附属資料）  
学生インタビュー記録

## 人材派遣・訓練協力会社（LETCO）の概要

### 1. 会社の概要

LETCO は、学生への就職支援及び企業への人材斡旋を主な目的とする企業として、2000年に商工省（MOIT）の認可を得て設立されたハノイ工業大学（HaUI）の子会社である。

大学の一部門として、経済室ないし経済センターのような形式で設立する方法もあったが、他の大学や企業との関係がうまく作れるだろうということで、会社化した。会社化したことで大学の規則に縛られずに、財政的に独立性、主体性を発揮して経営することができるということである。

LETCO は HaUI だけでなく、他の大学に対してもサポートをしている（ハイテク短期大学（Cao Dang cong nghe cao Ha Noi）での就職セミナー等）。

資本に関しては、HaUI が 100% 出資し、学長が LETCO の会長を兼務している。そして、HaUI にある本社以外に、バックザン省とフートン省に駐在事務所を設置している。なお、スタッフの総数は 65 人である。

### 2. 主な事業内容

#### ① 海外への人材派遣（労働者派遣）

2002 年に台湾への労働者派遣を開始したのを皮切りに、以後、2004 年にマレーシアへ、2005 年にアラブ首長国連邦へ、そして、2008 年にサウジアラビア、クウェート及びカタールへ労働者派遣を開始している。また、日本へは、2006 年に技能実習生及び技術者（HaUI 卒業生で、一定年数働いた経験のある者）の派遣を開始している。2011 年までの延べ派遣者数は、マレーシアへ 1800 人、日本へ 900 人、台湾へ 800 人等である。

近年の主要な派遣先は、マレーシア、日本、台湾、韓国である。

#### ② 学生への就職支援及び企業への採用コンサルタント（人材斡旋）業

ベトナム系企業及び外資系企業に対して各企業の求人ニーズを把握し、企業に学生の就職斡旋を行っている。

#### ③ 語学教育

国内の日系企業への就職希望者、技能実習生及び技術者として日本への派遣希望者を対象に日本語のトレーニングを行っている。現在、2ヶ所のトレーニングセンターで約 1000 人の学生が受講している。また、日本語の他に韓国語のトレーニングを行うセンターも一つ持っている。

上記以外に、④海外留学に関するコンサルタント業、⑤海外への派遣労働者に対する短期職業訓練（実技と学科）、⑥機械、設備及び技術移転に関するコンサルタント業、⑦観光サービス業等の事業を行っている。

### 3. 収入源

LETCO の収入源として、人材の海外派遣（労働者派遣）が最も大きな割合を占めている。

日本への技能実習生の場合、1人当たり 6000 円から 1 万円（派遣 1 人当たり 1 か月につき）が、日本の派遣先企業から LETCO に支払われる。現在、日本へ 350 人を派遣している。

他方、国内企業との間で人材斡旋がうまくいった場合は、1 人当たり 1 月分の最低賃金（105 万ドン）が企業から LETCO に支払われる（就職時に 1 回のみ）。

年間収益 150 万ドルのうち、100 万ドルが労働者派遣（手数料が高いため）からの収益で、残りが国内企業に対する人材斡旋等による利益である（年間約 2000 人を斡旋している）。なお、収益に関しては、年ごとに学部単位で設備を寄付する等の形で HaUI に還元している。

### 4. 企業開拓

インターンシップの引き受け先及び学生の就職先としての企業を開拓することは、LETCO の事業を進めるうえで極めて重要で、以下の方法で行っている。

第一に、ベトナム中小企業商工会、工業団地管理組合等に加盟企業のリストの提供をお願いする手紙を出す。そして、得られた情報に基づいて、企業に HaUI の学科や専門等を紹介する手紙を送り、インターンシップ引き受け先の開拓や学生の採用ニーズの把握に努める。

第二に、スタッフが直接企業を訪問して、インターンシップ引き受け先として学生を受け入れてもらえるか、また、インターンで優秀な学生がいればそのまま雇ってもらえるか等の交渉を行う。インターンを引き受けてもらえない場合でも、人事担当者に会い、採用計画等の情報の聞き取りを行う。

手紙での聞き取りについては、①企業の所在地、②人事担当者の名前、③生産製品についての 3 点が必須項目で、さらに生産規模や今後の採用ニーズがあるかなども聞く。インターンシップや求人ニーズがあったら連絡をお願いする内容も含まれる。回答の結果が必要であれば、企業へのサービスを提供する。

企業から情報もらった後に、インターンシップについては大学に相談し、マッチングと日程調整を LETCO が行う。プログラムの内容についても調整する。多くのインターンシップ引き受け先を確保することが最終的な目標だと考えている。

また、求人ニーズがある場合は、大学の中で企業が説明会を実施し、学生の面接会も併せて行う。寄せられた求人情報は掲示板に掲示するか、インターネットに掲載する。

HaUI の学生はホームページ（HP）の個人アカウントをもっているので相談することができる。そして、マッチングをしているのは HaUI の学生のみで、他大学の学生は求人情報を閲覧するだけである。

### 5. その他の業務

学生に対する情報提供：

- ①インターンシップ前研修：インターンシップで訪問する企業の基礎情報の提供を事前研修として行う。インターンシップの日程調整や学生と企業のマッチング等を行っている。
- ②大学と連携して、ソフトスキル、リーダーシップスキルなどの教育活動（セミナーの実施）も行っている。セミナーの講師は、ソフトスキルの専門家に依頼したり、自社のスタッフが担当したりする。

## 6. 就職支援活動のスケジュール

LETCO が主導して HaUI の就職計画を立て、学長の許可を得た後、各学部に採用計画を通知する。また、各部門と LETCO が協力して学生の就職活動をサポートする。

短大生の場合は3年次、大学生は4年次から就職活動が始まる。早い人では卒業の8か月前から就職活動を始める人もいる。LETCO が主催する就職セミナーは、大学4年次の10月から4月に実施する。

一般に、インターンシップ後に就職活動を開始する学生が多い。

大企業は卒業の6か月前（12月半ば）位に採用を開始するが、一般的には（卒業前に内定が取れる人を平均すると）卒業の4か月前に就職が決まることが多い。

卒業後1か月時点のサンプル調査によれば（各学部の学生数に応じてサンプル数を設定、トータルで2000票を配票。その後2か月かけて回収し（回収率は8割である）、データの整理を行う。）、卒業前に就職が決まる学生は10%位であるが、卒業後3か月の時点では8割の学生が就職している。この調査は大学の学生サポート室（phong cong tac sinh vien）と共同で行っている。学生達は卒業後も LETCO と密接なつながりを持つのでこのような高い回収率が実現できる。

今後の計画としては、卒業後も卒業生達が LETCO の HP の個人アカウントを使い転職活動に役立ててもらえるようにする等、卒業生の支援を進めることとしたい。

（文責：稲川 文夫）

## 学生インタビュー記録

No.	名前	性別	生年	年齢	出身地	家族	学校名	課程	専攻	学年	居住形態
1	Aさん	男性	1987年	25歳	タイビン省 ヴァトウー県	父:電気工務店+養豚。 母:小学校教員。 妹1:未婚。短大卒で、地元 の中学校教員。	ハノイ工業 大学	中級職業 訓練	機械加工	1年生	下宿
2	Bさん	男性	1992年	20歳	ハノイ市内	父:高校2年生時に他界(土 木関係の仕事で感電死)。 母:マンション清掃等。 兄1:中級専門学校(薬学 系)で2年間勉強。	ハノイ工業 大学	中級職業 訓練	機械加工	1年生	実家
3	Cさん	男性	1992年	20歳	ハノイ市内ラ ンフー	両親は農業。父は兼工員。 父:1965年生。小卒以下 (10年生中、3年生まで)。 母:1964年生。中卒(7年生 まで)。 兄1:工業大学中退。	ハノイ工業 大学	中級職業 訓練	機械加工	2年生	自宅からバス で通学
4	Dさん	男性	1993年	19歳	フート省	父:叔父と共に、工場で家 具製作。 母:農業兼野菜販売。 5人きょうだい(4男1女)の 真ん中。全員地元暮らし している。Dさんひとりだけ地 元を離れているため、両親 に心配されている。 兄1:就職。 姉1:既婚。 弟2:高校2年生と中学4年 生。Dさんの影響でハノイや 日本に行きたいと考えてい る。	ハノイ工業 大学	職業訓練 短期大学	溶接	2年生	親戚のところに 下宿

出身高校	高校選択理由	高校時の成績	高校進路指導や家族の影響
リボン(Lý Bôn)高校(国立、普通科、県内3校中2番目)。同級生の多くは大学、短大、職業訓練校(中級学校)に進学。			学校では、個別の相談はなかった。全体に対しては、もし大学に入れなかったら、職業訓練校(中級学校)にでも行きなさいと言っていた。どこの大学が良いのか先生は把握していない。
私立、普通科。同級生で大学進学もいるが、多くは高卒後すぐに職業訓練校(中級学校)へ進学。	国立に落ちたから。高校入試に失敗したことは嫌な思い出だが、VJC(ベトナム日本センター)に入学して、自分の進路も見つかったので、それほど大きな失敗とも思っていない。		学校の先生は、全員に向けて、男なら機械か電気関係の職業訓練校(中級学校)に入りなさいと言っていた。他方、親は進路に関して何も言わなかった。
地元の県には、普通高校が3校、補習学校が1校あり、そのうち成績で真ん中くらいの学校。高校の同級生45人中、大学進学が3人、残りの多くは短大や中級学校に進学。	中学校のクラスメートは40人いて、現役以外も含めれば全員が高校に進学している。先生からのアドバイスもとに、自らの能力に合わせて自身で判断した。	中学での成績は良(同じクラス45名のうち優は2人、良は13人)。	進学先について、高校の先生からの指導があったと言うよりは、兄が勉強していた学校だし、インターネットで調べて、自分で選んだ。両親は、農家を継がなくて良いから、より高い学歴を得てほしい、手に職をつけてほしいと望んでいた。
公立高校。フート省の少し田舎にある学校。それほど成績がいい学校ではない。同級生の半数は就職、残り半数は大学、短大、職業訓練校(中級学校)に進学。ハノイの学校に進学する場合は少ない。	実家から近いから	高校の卒業試験の点数は覚えていない。	

名前	高校の友達	高卒後の状態	進学理由
Aさん		4浪+2年機械関係の工場(実家近く)に就職。高卒後何をするか迷っていて、実家の家事・農作業の手伝いをしてきた。2009年に友達(同工場勤務)の紹介で工場に就職して、機械関係の仕事が好きになった。	高卒後の仕事内容に関係した分野(特にCNCの使い方)をもっと勉強したいと思ったから(工場では技術があまり身につかなかった)。また、友達(日系企業で働いている、近所の友達や高校の同級生)に聞いたり、インターネットで調べたりして、就職がいいことを知ったから。直接VJCに応募し、高校卒業試験の点数で選抜された。点数は覚えていない。VJCは他の職業訓練校に比べると入学が難しい。
Bさん	家が近いので、現在でも高校の友達と互いの家に行き、話したり、サッカーをしたりして遊ぶ。ほとんどみんなまだ職業訓練校(中級学校)等の学校に通っている。	高卒後何をするか考えておらず、とりあえず叔父さんの会社(手作業での家具の組み立て)で1年間働かせてもらった。	VJCの職業訓練課程出身で就職が決まった従兄弟の紹介。教え方が良いと聞いた。また、手作業よりも機械の方がいいなと思い、機械が好きだったから。直接VJCに応募した。
Cさん		高卒後すぐに進学	中学生の時は機械や車関係のことを勉強したいと思っていた。また、高校入学前は、自動車修理工になろうと考えていたが、高校のときに兄と同じ機械工学を勉強する学校に進もうと思った。本当は自動車のほうが好きだったが、兄と同じ仕事に就くほうがいいと思った。家族に機械工学関係の仕事をしている人はいない。職業訓練課程を選んだのは、早く社会に出たかったから。応募したのはハノイ工業大学のみ。
Dさん	高校の同級生の半数はもう仕事をしている。その多くは、高卒後すぐから、ハノイのタンロン工業団地で、電子関係の組立作業の仕事をしている。同じ会社で継続的に仕事をしている人が多い。同窓会の集まりで話したりする。同級生20人のうち、企業の中でよりよい仕事に就くために、職業訓練校(中級学校)等の夜学で勉強しているのは3人程度。	高卒後すぐに進学	第一志望はハノイ工業大学(4年制)。知名度が高く、自分自身の学力にもちょうどよかったため、ハノイ工業大学を受験した。また、地元の大学には勉強したい分野の学部がなかったことや、ハノイに親戚がいることも、ハノイの大学を選んだ理由のひとつ。文理選択においては、男性は理科系を選ぶ場合が多いため、理科系に。ハノイ工業大学(4年制)を受験したが、合格点に足りず、VJCの短大課程に進学。受験したのがハノイ工業大学だったため、他の学校を選べなかった。工業大学にはVJCの他にも短大課程があるが、そこは理論的なことしか教えてくれない。親に手に職をつけたほうがいいと言われたため、VJCを選んだ。大学入学受験の点数は3科目で9点だった(基準点は17点)。

学費・生活費	学校生活	成績	バイトなど
すべて親からの仕送り	土日以外は、朝5時から5時半に起きて、6時にVJCの工場に到着。11時半まで授業(実習)。1時間の休憩をはさんで、12時半から17時半まで工場授業(実習)。工場では、実際にカット、研磨、図面作成の作業。	10点満点中7点台(トップクラス)	生活費は仕送りで足りているが、洋服代などお小遣い稼ぎに、休日たまにチラシ配りなどを2時間程度。
学費全額を母が負担。	朝5時に起床、6時から学校に行き、11時半まで授業。昼食は家に帰って食べる。その後、学校に戻り、17時半まで勉強。帰ったら夕食作り。母の帰宅を待ち、一緒に食事をする。職業訓練の勉強に関しては、プログラムを組めば作動してくれるので、CNCが好き。現在の課程では、色々なことが出来るし、実際に作業も出来るので、自分のためになっているし、自分にあっていると思う。また、勉強に関しては、今まで一番頑張っている。	10点満点中7.3点(中の中くらい)。苦手な科目はない。勉強に関する心配はない。	実家の近所の工場での仕事を頼まれるので、そこで休日たまにアルバイト。バイト代はガソリン代にあてて。
学費は月55万ドン。親からの仕送りが主な収入源。裕福な家庭ではないが、学費は工面できる経済状況。奨学金はもらっていない。	朝5時起床、5時半に朝食をとり、その後バイク(以前は自転車)でバス停まで行き(10分)、そこからバスで学校へ(20分)。6時10分、学校到着。6時半から1限目の授業開始。11時半まで授業。工場での実地研修が主になる。授業にはほとんど出席している。午後はバスに乗って帰宅。そして、親戚の仕事(機械関係のお店)の手伝いをする。給料は出ないが、お小遣いはいくらももらっている。	機械科目に関する成績は良(10点満点中7点くらい)	
すべて親からの仕送り	朝4時半に起床し、体操をしに行く。5時に帰ってきて、朝食を食べ、学校へ。午前6時半から11時半まで、午後は12時半から17時半まで授業を受ける。1週間のうち2日は全日、それ以外の日は半日勉強。授業にはきちんと出席している。最近の休日は、日本語を独学で勉強している。組み立てなど、電子関係の勉強が好き。	10点満点中7点台(良)	休日にアルバイトをしている時間はあまりない。



名前	就職	インターンシップ	企業に関する情報源
Aさん	就職については現在考え始めているところ。VJC卒業だと、日系企業に就職しやすいため、工業団地の日系企業への就職を考えている。日系企業は工場が清潔で、衛生的であるなど、労働環境が整備されている。これまでVJCの案内で、ペンタックス、トーホーなどを見学した。入職後は、CNCをマスターしたい。CNCに直接関わる仕事であれば定年まで働きたい。	卒業研修(インターンシップ: 来年4月に希望を出して、5月から)前に調べるのが普通。インターンシップ先はセンターが用意。インターンシップ先はトーホーを希望(CNCが多いから)。	企業(リーダーや管理職の方)との交流会(選ばれた学生のみ)での、会社概要と採用計画の説明。求人情報はまだ見ていない。大企業に入った先輩たちにも(VJCに帰ってきた際に)話を聞く。就職関係の交流サイトでの企業情報の交換。
Bさん	VJCの方に日系企業(キヤノン)の見学(入学して半年後くらい)に連れて行ってもらい、日系企業に入って、機械関係の仕事をしたいと思っている。また、VJCを紹介してくれた従兄弟が、日系企業に就職して勤めになったから。また、日系企業は、訓練がきちんとしており、職場環境もいいから。日系企業に入りたいが、給料を重視するというよりは、経験のためにどこでも良いからまず入りたい。VJCの就職状況については、従兄弟から聞いていた。	第3学期が終わるとインターンシップのプログラムが用意されている。だいたい先生方がインターンシップ先を用意しており、その中でどういところがいいか学生が選び(各企業のHPを見るなどして)、そこに希望を出し、インターンに入る。	企業見学。たまに先輩と情報交換。VJCが用意している企業はともいいところが多いので、学生はそれ以外探さなくてもいいと思っている。企業情報として最も関心があるのは、賃金ではなく、どういう技術を使って生産しているのか、新しい技術、まだ知らない技術かどうかや教育訓練内容。経験をつまなければ仕事は出来ないという考え方は、VJCに入学してから身についた。
Cさん	社会保険、失業保険、健康保険や、諸手当などが充実している会社(=いい会社)に入りたい。外資系の企業を希望。ベトナムの民間企業に行くよりは、外資系企業のほうが職場環境がよく、仕事も見つかりやすいと考えるため。みんなが外資系企業のほうがいいと言っていて、自分もそうだと思っているが、なぜいいのか自分でもはっきりわかっていない。	タンロン工業団地でインターンシップをしたい。(人気のある)トーホーしか知らないの、それ以外はわからない。インターン先は、センターや先生に頼んで紹介してもらおう。	就職先は先生に頼んで探す。周囲の友達の中には、すでにインターンシップ先で経験を積んでいる者もいるが、多くがまだ就職に関する情報を持っているわけではないので、それほど活発に情報交換はしていない。
Dさん	将来は、現在勉強している溶接関係や金属加工の仕事が出来る企業に就職したい。どういう会社なら就職できるのかなど、就職に関しては少し心配がある。就職について、時々父親と話す、とりあえず勉強しなさい、好きなことをしなさいと言われる。就職先は、収入が安定している会社がいい。安定した収入を得て、親を楽にさせてあげたい。	まだ企業見学や工場見学には行ったことがない。来年の初め頃にインターンシップに行く。	まだ卒業生はいないが、先輩はいる。まだ話はしていない。先生からは、就職先のことについては、今勉強を頑張って技術を身に付ければきちんと就職できるということと言われる。あるクラスでは、職業訓練課程卒業生の例をいくつか出して、よく頑張って造船会社に就職した先輩の話や、職業関係のコンテストで入賞した先輩(溶接関係)の話などをしてくれた。

周囲の友達	影響を受けた人物	将来展望
ほとんどの人が日系企業を希望。工場見学をして、清潔感があるから。	高卒後に働いていた近所の工場の先輩に、CNCの魅力を教わった。	将来もハノイにいたい、どういう職に就いたとしても、ハノイで生活すること(住宅購入など)は大変だろう。現在恋人はおらず、まだ結婚についても考えていないが、将来家庭は持ちたい。
まず経験のために働いて技術を身に付け、給料のことは後で考えるというのは、周りの友達も同じ。	VJCの先生方。	勉強したことを活かして、ずっと仕事をしたい。結婚は今のところ考えておらず、とりあえずは勉強したい。
奨学金を貰っている人はいない。同級生の女性で、日本に行きたかったが、健康診断でダメだったので、学校をやめてしまった人がいた。		現在、独身。長く働けるような、安定した仕事、会社で働きたい。最初は工場で働くが、将来はオフィスワーカーとして働きたい。そのほうが仕事がきつくないから。一度社会に出てみて、仕事が安定してきたら、一段上の学校に進学したいという希望はある。
	地元の少し年上の友達。彼はVJCの職業訓練課程に通っていて、日本にも行ったことがある(技能研修制度で3年間?)。彼から高校生の時に話を聞いた。勤勉で一生懸命頑張る人。日本から帰ってきたばかりで、現在新しい仕事を探している。	仕事を探しやすいので、将来もずっとハノイに暮らしたい。短大卒業後は、仕事をしながら、大学に編入学し、勉強を続けたい。実家送金はするが、両親の面倒は、地元に残っている兄弟に頼むつもり。将来は日本に研修に行って(技能研修制度)、日系企業に入社したい。

No.	名前	性別	生年	年齢	出身地	家族	学校名	課程	専攻	学年	居住形態
5	Eさん	男性	1992年	20歳	バクザン省 ルックナム (Lục Nam) 県	両親：農家。 2人兄弟の長男。 弟1：中学1年生。 祖父：学校の教員。	ハノイ工業 大学	職業訓練 短期大学	機械加工	3年生	下宿
6	Fさん	男性	1993年	19歳	ゲアン省	父：高卒。高卒後2年間徴 兵に行き、その後は母と結 婚し、現在は農業に従事。 母：師範中級専門学校を受 験したが、失敗。 2人兄弟の長男。 弟1：11年生(高校2年生)。 親戚で一番高い学歴は、中 級専門学校卒(その後、国 家機関(国防系)勤務)。	ハノイ工業 大学	職業訓練 短期大学	工業電子	2年生	寮
7	Gさん	男性	1993年	19歳	ハノイ市内	両親で農家。 父：1964年生。中卒。 母：1965年生。高卒。 姉1：高卒後、日系企業で ワーカー。	ハノイ工業 大学	職業訓練 短期大学	溶接	2年生	自宅からバス で通学
8	Hさん	男性	1990年	22歳	ハノイ市郊外 バヴィ(Ba Vi)	父：土木関係の仕事(職 人)。 母：米販売。 姉2：一人は大卒で高校教 員。もうひとりとは大学受験 に失敗し、高卒で縫製工場 勤務。2人とも既婚のため、 実家には両親のみ。	ハノイ工業 大学	大学	機械工学	4年生	もう一人の学 生と下宿(大 学から1km) 下宿は普通 のことで、抵 抗はなかつ た。

出身高校	高校選択理由	高校時の成績	高校進路指導や家族の影響
ルックナム高校。出身県にある高校4校で最も成績のよい学校。8割が進学。		進学クラスで中くらい	先生からの進学指導はなかった。高校で受験した大学入試のプレテストの結果や市販の大学案内(全国版、『受験で知っておくべきこと』)を読んで、志望校を決めた。
普通高校は全部で5校あり、そのうちの成績が上から2番目の学校。高校の同級生52人(女性が多い)中、半分がマレーシアに働きに行くかサムスの工場でワーカーとして働いており、その他、15人が大学進学、地元の短大が5人、同じ短大が3人。	中学校の選択理由は有名なトップ校は難しかったため、2番目に有名な高校に進学。	中学時の卒業証書の成績は可。	高校2年生(11年生)の頃から、高等教育に進学して、下士官になってほしいと、父に言われていた。
公立校。地元にある高校3校のうちの成績トップ校。中学時代の同級生45名中、43人が同じ高校に進学。高校内に交通中級学校が併設されており、高校時代(10年生と11年生の授業後)にその授業も(サブ授業として)とっていたので(同級生45名中35名、男女比は同程度)、高校卒業と同時に中級学校の卒業資格も得た(中級学校の学費のみ県が一部援助)。中級学校ではIT関係の情報学を学んだ。	高校は自分のきょうだいや近所の人に聞いて、結構いい高校だということを選んで。	中学校時の成績は良。高校の成績は、中くらい(可)。	
ゴ・クエン(Ngô Quyê`n)高校(公立、普通科)。同じ中学校から10人程度同高校へ進学。出身地域(バヴィ)には高校が7つあり、当時は成績が上から2番目、現在はトップの学校。ほとんどの学生(浪人も含めて)が4年制大学に進学。	実家から近く、希望した学校だった。	覚えていない	先生から大学に行きなさいと言われていたことはないが、親からは学歴は大事だから、勉強頑張ってください、大学に行きなさいと言われていた。

名前	高校の友達	高卒後の状態	進学理由
Eさん		高卒後すぐに進学	第一志望は交通大学。大学入試のプレテストの点数および大学案内本を勘案し、自らの能力にあった大学に決定。交通大学の交通インフラ関係を志望していたが、合格点にわずかに足りず、ハノイ工業大学に。もともと機械は好きだったが、機械工学は工業大学で最難関の学部だったから。
Fさん	女子生徒のほうが、大学受験者は多い(医学や経理など)が、試験に不合格となり、高卒後工場のワーカーに。女性の場合、もし短大や中級学校に行ったとしても、卒業後就職口がないため、大学受験に失敗した場合、進学は諦める。男性の場合、短大や中級学校を選んだとしても、その後プロフェッショナルな職に就くことができるため、大学を受験せず、最初からそうした学校を選ぶ傾向にある。	高卒後すぐに進学	中学校の頃は、物理が結構得意で、将来は電気関係の仕事をしたかった。高校時から工員になりたいと思っていたため、電気関係の短大を選んだ。また、同じ村の先輩が、同じ学科を卒業してタンロン工業団地の日系企業で働いているため、同じようなルートを進みたかったから。父は兵役経験があり、叔父が軍隊で働いているため、父の薦めに従って、クアンビン省下士官学校も受験(併願)したが不合格だったため、現在の学校に進学した。彼自身としては電気関係の仕事に憧れていたため、不合格でラッキーだと思った。浪人して別のところを受けようとは思わなかった。
Gさん		高卒後すぐに進学	大学進学は、両親の影響を受けてもいるが、自分で決めた。中学校時は、とりあえず高校に進学することを考えていたが、IT関係の情報学を学びたいと思っていた。高校卒業時点では、情報学を学び続けたいと思っていたが、情報学学習者は多く、それを続けても、将来就職は上手くいかないだろうと、両親や友達に言われた。そのため、まだ学習者の少ない機械工学だと、就職機会が多いだろうという家族の意見を聞いて、選択した。また、溶接に関しても、家族の意見をもとに選んだ。受験では、まずハノイ工業大学の4年制と公共政策短大を受験した。工業大学(4年制)が不合格となったが、VJCにも願書を出したところ、合格となった。VJCの短大課程を受験したのは、国営企業で機械製造の仕事をする叔父に、公共政策短大よりもVJCの新しいモデルで機械関係の勉強をしたほうが良いと進められたから。
Hさん		高卒後すぐに進学	兄弟皆、小さい時から大学進学を目指しており、高校時から機械の勉強をしたいと考えていた。高校の勉強で、物理や技術関係の科目が得意だったため、機械の勉強が自分に向いていると思った。ハノイ工業大学を選んだのは、新しい学校であり、発展性を感じたから。当初はハノイ工科大学に進みたく思っており、対応の点数もあったが、自信がなく、(自分で判断し)受験しなかった(当時は複数大学を受験できなかった)。大学入学受験科目は、数学、物理、化学だった。

学費・生活費	学校生活	成績	バイトなど
すべて親からの仕送り。奨学金はもらっていない。仕送りは、1, 2年生が100万ドン、3年生が150万ドン(実験などが入ってくるため、増額)。これで学費、宿泊代などすべてをまかなうので、節約している。	授業は前期が午前中なら、後期は午後というように交代制。午前場合は7時から11時半、午後場合は12時半から17時半。実習は週1回のみ、(第2学期(1年生後半)と第4学期(2年生後半)にあり)、時間は17時半から22時まで。工場実習がない場合も実験が入ることもあるのでそれほど自由ではないが、自由な時間は部屋で復習をするか、友達と遊んだりする。また、従兄弟が働く小さな工場に見学に行き、ソフトウェアの使い方など(CNCはないが)を勉強している。機械設計に興味があり、設計に使うソフトウェアの勉強が一番好き。	4点満点中2.0点	1, 2年生の時はアルバイトをしていたが、3年生になって実験等忙しいため、やめた。スケジュールが埋まっているため、週1回のバイトも難しい。
学費全額を両親が負担。奨学金はもらっていない(成績が10点中8点以上無いともらえない)。	朝5時半に起床、6時半に朝食をとり、学校へ。授業は11時半までに終わり、午後は授業がある場合は、12時半から開始。ただし、週に1回ある二部制の日のみ、午前・午後ともに授業がある。授業がない時間帯には、友達と遊びに行くのではなく、日本センターで日本語の勉強をしている(日本語コース6ヶ月で150万ドンの費用がかかる)。バドミントンをしたり、走ったりはするが、サークルなどには入っていない。	良と可のあいだくらい	
学費(1学期285万ドン)はそれほど家族の負担にはなっていない。	朝5時半に起床、朝食は食わず、5時50分に家を出て、近所のバス停へ。6時から6時20分にかけてバスに乗り、学校へ。授業は6時半から11時半まで。その後、実家に帰り、家業の手伝い。夜は、友達の家遊びに行くこともある。サークル活動はしていないが、共産青年団に入っており、その活動が夏場は週に1回のペースであり、また村のお祭りに関わる活動もしている。		アルバイトはしていない
一部は親から、一部は教員である姉からの仕送り。大学の同窓会から奨学金をもらっている。	朝6時に起床、7時から11時半まで授業。工場実習がある場合(週2回)は、6時半から開始。午後はフリー。基本的に座学が60%。工場実習は、大学の別キャンパス内の工場で行う。午後は、大学外で勉強しに行くか(英語、ソフトスキル、プレゼンテーション、時間管理のセミナーなど。将来とても必要になると、高校の先輩や、大学のイベント・工場見学で知り合った同大学の卒業生や先輩から聞いたから)、友達と一緒に遊びに行く。勉強に関しては、機械学など理論的な勉強が好き。実習だと、図面設計が好き。	4点満点中2.7点(良)	大学2, 3年生の時は家庭教師やお店でのアルバイトをしていたが、忙しくなったので、今はしていない。

名前	就職	インターンシップ	企業に関する情報源
Eさん	<p>実家が裕福ではないので、家族の負担にならないように自立しないといけないと考え(家族からのプレッシャーもあって)、就職については、どういう方向にいくか、何を勉強すれば企業の要求に応じることが出来るかを、大学2年生の頃から考え始めた。色々な経験を積んでいく必要があるため、最初は技術者からではなく、作業員、ワーカーのポジションからスタートしたい。CNCのソフトウェアの使い方を現在勉強しているので、金型やCNCを扱う仕事に関心がある。親に負担をかけたくないので、どこでも良いので就職したい。可能性が高いのはベトナム系私営企業。卒業後すぐに仕事に就ければベスト。</p>	<p>旧正月明けの2月から2ヶ月間インターンシップがある。従兄弟の工場以外の、工場見学はしたことがない。インターンシップ先は、自分で探して、もし見つからなければ大学が紹介してくれる。友達を紹介してくれた電車関係の部品を作る工場(その友達の兄が勤務している)にその友達と2人でインターンシップ予定。週に一度先生に報告をしに行き、インターン終了後に報告書を書き、それで8単位がおりる。成果発表会はない。</p>	<p>現在、インターネットの24h.comや企業のホームページで求人情報を調べたり、親友と情報交換したりしている。技術を教える先生(理論と実習の両方を担当)から、もっとソフトウェアを上手に使いこなしてほしいとか、機械の使い方を訓練してほしいなど、情報を教えてくれる。つぎの2月に大学で開催されるジョブフェアに期待している。実家は農家なので、両親は仕事については、頑張りなさいとか言わない。</p>
Fさん	<p>日本にある企業に就職できればベストだが、もしダメだった場合は、ベトナムの日系企業で働きたい。まだどこの会社が良いか具体的には決まっていないが、専門的な仕事がしたい。日系企業は数が多いので、就職先に関しては心配していない。地方出身であるため、まずはハノイで就職活動して、もしそこで仕事が見つければ、家族に相談してみるが、もし地元(それ以上)にいい企業があればそちらに行くつもりはある。ただ、父親も母親からも、仕事に関するプレッシャーはない。</p>	<p>研修生として(3年間)日本に行くという選択肢はすごく考えている(ホーチミン共産青年団の研修生制度を利用して)。日本に行きたい理由は、日本ではよくルールが守られており、また先進国で色々な経験をして、学びたいと思っているから。</p>	<p>インターネットよりも、学校が主催するジョブ・フェアに参加して、情報を得るほうが多いと思う。また、実際にどういった企業がいいのか、先生と一緒に見学に行き、先生方のアドバイスをもとに決めていくと思う。</p>
Gさん	<p>短大卒業後、短期間(3年間)で先進的な技術国である日本に行ってみたい。日本に行きたいと思ったきっかけは、近所のお兄さんが何人も労働力輸出で日本に行っており、帰国後(日系企業のワーカーなどで)それなりに良い生活をしているから。自分自身も、短大卒業後は彼(日系企業で働くワーカー)のようになりたい。渡日のための支度金は近所の知り合いに借りることが多いが、帰国後ちゃんと返済できていると聞く。</p>		<p>日本の企業の情報は、叔父さんに紹介してもらう予定。ただし、情報は家族からもらうが、実際に行くのはLETCO(人材派遣・訓練協力会社)を通じてだろうと思う。LETCOが日系企業がどういった人材をほしいかの情報を集約しており、そこが行う試験に合格しないと、労働力として日本に行くことができない。また、友達によると、LETCOの仕事としては、大学生への就職先紹介と、海外への人材派遣(労働力輸出)に関わる仕事がある。</p>
Hさん	<p>就職について考え始めたのは、大学3年生の終わりごろから。来年の4月か5月に日系企業のデンソー(タンロン工業団地)の面接を受けようと考えている。色々調べた結果、現在のところデンソーが一番いい。なぜなら、年上の友達から、そこに入社すれば、日本語を教えてくれるし、機械についてもきちんと訓練してくれると教わったから。設計技術者のポストに就きたいが、デンソーに入社できるのであれば、現場の技術者でもいい。デンソーに就職するために、現在は英語とソフトスキル以外に、機械の基礎知識について勉強している(デンソーに入る時にチェックされると先輩から聞いたから)。第2希望は、おもちゃ製造のベトナム企業(ドウシー)。理由は、給料が高く、テレビで見て、アメリカの展示会に出品するなど、発展性を感じたから。</p>	<p>誰でも参加できるような工場見学やインターンシップは、来年1月から3月まで2ヶ月間ある。すでに卒業研究のテーマを決めており(先生との共同研究)、それが出来る環境に大学内の工場があるので、学外の企業でのインターンシップは予定していない。</p>	<p>大学2年生の頃から、インターネットで企業のホームページや機械関係のサイトを調べたりする。また、同じ下宿先の先輩や友達に聞いたり、大学のフェアなどに参加したりして、色々な情報を集めている。大学の先生から就職指導は一切ない。大学は、工場実習のほか、会社説明会やセミナー、工場見学もたまに行っている。会社説明会には最近2回ほど参加した。機械設備展示会には1回参加。デンソーに就職を希望しているとある先生に話したら、デンソーのことを詳しい方で、採用の仕方など教えてくれた。</p>

周囲の友達	影響を受けた人物	将来展望
<p>技術者にはなりたいが、能力が足りないため、まずは作業員からスタートしたいと考えている友達も何人かいる。短大の同級生とのつながりが一番多い、先輩とのつながりはそれほど多くない。友達の半数は大学編入学を考えている。</p>		<p>機械設計に携わる技術者になりたい。将来は同じ会社に継続して勤めてもいいし、仕事をしながら経験を積み、一人前になったら、転職することも考えている。仕事をしながら、大学で勉強もしたい。自立したいので、地元には帰りたくはない。現在は日本語の勉強はしていないが、将来研修生として日本に行ってみたい。</p>
		<p>将来に対する不安は特にない。もしその仕事内容が好きで、安定していれば、ずっと同じ会社で働きたい。出来れば、ずっと同じ会社で経験を積み、また資金を貯めて、将来的には独立し、自分の会社(電気関係)を作りたい。</p>
	<p>特に誰か1人から影響を受けたわけではなく、色々な人の意見を取り入れて、自分で決めてきた。先生で言えば、大学1、2年生のときに教わった先生が、専門に秀でており、性格も良いため尊敬している。</p>	<p>ひとつの企業に長く勤めたいと思っている。</p>



No.	名前	性別	生年	年齢	出身地	家族	学校名	課程	専攻	学年	居住形態
9	さん	男性	1991年	21歳	タインホア省	両親:農林業。 5人兄弟の4番目。 兄:中級専門学校卒業後、 町役場勤務。既婚。 姉2:ひとりは大卒。もうひ どりは高卒後、工業団地で 働いている。一人の姉は既 婚。次女である姉は、さん と弟の進学のために、大学 進学をあきらめた。 弟1:工科大学在学中。	ハノイ工業 大学	大学	機械工学	4年生	高校のときの 同級生と下 宿
10	Jさん	男性	1991年	21歳	タイグエン省	両親は農業兼小売業。 父:1965年生。高卒後すぐ に徴兵に。 母:1967年生。医科大学受 験に失敗し、高卒後徴兵 (志願兵で先鋒隊)に。 両親は徴兵先で知り合い 結婚。	ハノイ工業 大学	大学	機械工学	4年生	下宿(2人一 部屋で、1ヶ 月の家賃(水 道代・電気代 込み)は70万 ドン)
11	Kさん	男性	1991年	21歳	フンイエン省	両親は農業。 父:1957年生。農業大学 卒。 母:1964年生。高卒。 3人きょうだいの3番目。 姉2:ひどりはタイグエン師 範大学の受験に失敗し、進 学を断念。高卒後洋服の縫 製工場(小規模)を経営。 既婚(結婚相手は花を育て る仕事)。もうひどりはハノ イ第一師範大学の受験に 失敗し、工業区でワー カー。	ハノイ工業 大学	大学	機械工学	4年生	2人1部屋で 下宿(家賃50 万ドン)
12	Lさん	女性	1983年	29歳	ハノイ市内 ナムタイコン (Nam Thành Công)	父:大学教員(理工系) 母:国家行政機関(科学技 術系)が所轄する部局に勤 務。	ハノイ工科 大学	大学	食品加工・管理	卒業 (2008年)	

出身高校	高校選択理由	高校時の成績	高校進路指導や家族の影響
<p>タックタイン(Thạch Thành)高校。一番成績のいいクラスの90%、2番目のクラスの60%(浪人するのは2, 3人)、その下のクラスの2, 30%が大学進学。Iさんは、2番目のクラスに在籍。</p>			<p>ハノイの大学のシステムを先生はおそらく把握していないため、具体的な大学のことについて指導はなかった。数学などの勉強をしているので、大学に進むとしたら、技術系などの、理系の大学になると言われた程度。医学部と工業大学を併願したのは、友達に教わったから。基本的に、各大学の合格点数を参考にしながら、自分の学力に見合ったところを自分たちで探す。</p>
<p>県の普通高校。専科高校と比較して、県の学校の方が、選抜過程を経ているため生徒の質が低く、教育の質も低い。大学進学率に関して、専科高校は98%程度に対して、県の高校(一般クラス)は10~15%程度(短大、中級学校を含めるとほとんどが進学だが)。進学できない子は、女子で、1, 2年自宅待機した後、労働者として工業団地で働き、その後結婚するパターンになる。大学進学先としては、ハノイ市内と地元のタイグエン省の学校に進学した者が多い。</p>	<p>地元の村から離れたところにある専科高校に数学で合格していたが、戸籍を移せなかったため、地元の普通科高校に進学。</p>		<p>進学先を選ぶ上で、学校の先生方(インターネットで調べた情報をくれた)や両親にも話を聞いたが、大学に進んだ親戚のお兄さん、お姉さんの意見が一番参考になった。バイオテクノロジーのほうに進んだほうがいいという先生もいたが、色々な先生方や親の意見を聞いて、機械工学に決めた。</p>
<p>公立高校。高校の同級生43名中、19名が大学進学、13名が短大進学、残りのほとんどは地元にある工業団地でワーカーとして就職。女子は縫製のワーカーに、男子は機械系のワーカーになっている。</p>	<p>出身県には公立校と私立校が1校ずつあり、私立校は学習環境が余りよくないため、公立校に進学。</p>	<p>高校の成績は、可。</p>	<p>近所にある工業団地で就職しやすいという理由で、機械工学を勧められる先生は多かった。ただ、教員になりなさいと言った先生もいたなど、意見に個人差はあった。両親は、家計は苦しいが、あなたのしたいようにしなさいと、応援してくれた。</p>
<p>キムリエン高校(公立、普通科、第2ランクのトップ校、1学年17クラス×約50名、女子6割)。当時は、高校入試はなく、中学校の卒業試験の点数で選抜。中学校時代の同級生(48人)の半数以上が、同高校へ進学。高校で同じクラスだった生徒の9割以上が大学合格(うち7割が現役入学)。男子の半数は技術系に進んだが、女子で技術系に進んだ人はほとんどいない。</p>	<p>最初は進学校(チューバンアン高校)に入学を目指したが、試験に落ちてしまい、第2ランクでトップのキムリエン高校に入学。</p>	<p>高校では、特進クラスではなく、普通クラスに。</p>	<p>とりあえず大学進学(少なくとも短大には進学)したほうが良いとは言いが、具体的な進路指導はなかった。職業訓練校(中級学校)は念頭になかった。高校の先生は将来の進路に関して何も指導しないので、職業選択は高校以前からの親の影響が強くなる。</p>

名前	高校の友達	高卒後の状態	進学理由
Iさん		高卒後すぐに進学	他大学の医学部が第一志望だった。2つの大学を受けた。ひとつが医学部、もうひとつがハノイ工業大学で、医学部に落ちたため、現在の大学に入学。医学部は難しいため、もし落ちても行くとこがあるように、技術系の大学も選んだ。高校時代に生物が得意だったため、入試科目が数学、生物、化学である医学部を志望していた。(大学がハノイ市内に近く、)学習環境が良く、ベトナム北部で大学に行くとしたらハノイの大学だから。また、地方の大学には行きたくなかったから。技術系の大学としてハノイ工科大学と工業大学があるが、自らの学力を考えて、後者に。
Jさん		高卒後すぐに進学	受験する大学を決めた理由は、興味のある分野だったこと、自らの能力・成績と照らし合わせて合格可能性があること、大学教育の質的水準が高いこと、であった。田舎に住んでおり、都市に比べて、得られる情報が少ないため、自分で大学ガイドブックを読むなどして、どの大学がいいかを選んだ。高校入学時の試験で、数学の成績が最も良く、数学コースに進んだこともあり、機械工業が自分に向いていると思った。理系の方が自分自身の創造性を高めることが出来ると思った。地元ではなく、ハノイの大学を選んだ理由としては、教育の質がいいこと、就職の際にアプローチしやすいこと、社会的な経験を積むチャンスが多いこと、学習環境が整っていること、ソフトスキル、社交性、外国語を学ぶチャンスが多いこと、がある。
Kさん		高卒後すぐに進学	高校1、2年生の時に、大学に進学しようと思った。この大学・専攻は、高校3年生の時に決めた。小さい頃から農業・農耕機械に接しており、機械が格好いいと思っていたことから、機械工学に憧れを抱いていた。経済に進むということも考えたが、経済に進学すると就職が難しいのではないかと友達の話もあって、就職しやすい機械工学を選んだ。父親も大学に進学しているし、自分も頑張って大学に進学しようと思った。ハノイ工業大学を選んだ理由は、現在工場を営んでいる姉が勧めたから。もともとはハノイ工科大学を志望していたが、もし受験に失敗した場合、家族の経済状況からして、再受験は厳しいと考え、安全のため、一段レベルが下のハノイ工業大学を受験したほうがいいと言われた。
Lさん		高卒後、ハノイ工科大学の短大(大学と同じ学科)に3年間通ったが、大学に編入学(編入試験は英語と高等数学のみ)。短大入学から大学卒業までに6年かかった。短大進学は、大学受験で合格点に1点足りなかったから(基準点は3科目で21点)。	ハノイ農業大学・食品加工・保管学科に現役で合格したが、都会から離れており、人気がないため、進学しなかった。短大に進学した理由は、技術系・生産関係の大学ではハノイ工科大学がトップでステータスが高いから。高校時に受験塾に通っており、そこで良い先生にめぐり合い、化学が好きになった。高校の時は、周りもそうだったが、とりあえず勉強をしていて、将来何になるかは考えていなかった。短大3年次(最終年)にハノイ郊外にある国営の食品加工工場で1ヶ月間研修・見学し、研究開発課で働きたいと思い、そのためには大学に進学しないといけないと思った。短大の同級生150名(ほとんど女子)のうち10～15%が大学に編入学、残りは製菓工場や酒造会社等へ就職。

学費・生活費	学校生活	成績	バイトなど
<p>さんと弟は、姉から仕送りをもらっている。両親からの仕送りもある。1年生の時は、奨学金をもらっていた。</p>	<p>朝6時25分に起床、7時から11時半まで授業。午後は大体休みか、週2回大学の工場で実習。(1年毎に午前・午後に授業があるかわる)。それ以外に、午後は、アルバイトをするか、遊んでいる。勉強は夜中にする。また、今年の8月から、サークル活動のようなかたちで友達と英語の勉強をしている。学校の勉強に関しては、最初の1年は機械の勉強に関心を持ってなかったが、現在は面白さに気づいた。小さいときから機械は好きだった。機械の専門知識を勉強する中で、先生から将来の仕事にこれはこういうことが使われるんだということや専門分野の広さを教わり、その中で自分は何を勉強しないといけないか考えるようになった。</p>		<p>週2、3回家庭教師のアルバイトをしている。</p>
<p>1年間の学費全額(600万ドル)を両親が負担。生活費はアルバイトをして稼いでいる。1か月平均100万ドルの仕送りがある(多い時は500万ドル)。</p>	<p>朝6時に起床、朝食は食べず、6時半に家を出る。大学までは15分かけて歩いて登校。1限目の授業開始は7時で、45分授業。11時半から昼食の時間となり、午後も授業がある場合は12時半から授業が始まり、最後の授業が終わるのは17時40分。午後に授業がある日は週に3回。授業以外の時間は、図書館に行ったり、大学のラボで卒業研究をしている。週2、3回、夜(18時半から21時)はクラブ活動に参加している(クラブ活動に積極的に参加しているのは1~3年生)。周りの友達や先生に教わり、ソフトスキルや外国語の重要性に気づいた。ソフトウェア開発のクラブ活動や日本語や英語の勉強のためのクラブ活動に参加している(英語クラブは週1回、木曜日)。また、各企業が主催する生産品や技術紹介のフェアに参加したりもする。同じ学科の同級生の多くが、クラブ活動やフェアに参加している(クラブ活動は大学生がメインで、短大や職業訓練課程の学生は全くない)。</p>		<p>家庭教師として、高校生に物理、数学、化学を教えている。アルバイト代は、1か月150万ドル</p>
<p>仕送りは1か月50万ドル。奨学金はもらっていない。</p>	<p>5時半に起床、6時半に家を出て、7時から11時半まで授業。大学へは自転車で通学(1.5km)。以前英会話のクラブ活動に参加していた(現在は4年生のため不参加)。英語が大事だと考えているため、インターネットで英語の勉強をしたり、ベトナム人の友達と英会話の練習をしている。授業に関しては、機械加工に関する実習が一番面白い。</p>		<p>カフェのウェイターのアルバイトをしている。給料は1ヶ月120万ドル。</p>
	<p>大学の最初の2年間(教養教育)で勉強したことが、日本の政府機関(国際協力系)での仕事(プロジェクト)に役立った。逆に最後の2年間で身に付けた専門知識はあまり役立たなかった。ベトナムの国家行政機関(科学技術系)に属する局局での仕事では英語と論理性が重要だった。</p>	<p>短大3年間の平均が、10点満点中7.5点(良)。大学では、7.96で良(8以上で優、5点以下は追試に合格しないと、卒業できない)。</p>	<p>アルバイトはやっていない。他の友達はアルバイトをして経験を身に付けようとしていたが、学生時代にはソフトスキルを身に付けることが重要だと短大2年生の時に感じ、青年団などに参加した。</p>

名前	就職	インターンシップ	企業に関する情報源
いさん	設計の仕事、あるいは機械組み立て、工作関係の現場技術者の仕事を考えている。機械設計の会社で、キヤノン(年に数回採用がある)やサムスンについて少し調べた。それらの企業では、給料や待遇制度が良く、自らが勉強していることを活かせると思ったから。また、大企業のほうが条件がいいと思う。まだ英語をそんなにマスター出来ていないこともあって、就職活動は、卒業(6月)後、卒業証明書が発行されてから(来年の年末から)本格的に始めようと考えており、それまでは近所の企業で仕事を探すつもり。経済的に親の負担が大きいため、仕事はほしいが、今はしっかり勉強をしたい。	学校が紹介してくれると聞いたので、自分からは探していない。以前共同研究をした先生に、インターンシップ先を紹介してくれるように頼んでいる。インターンシップ先に就職することも考えている。	大学内での共産青年団・学生自治会が主催した、会社の説明会やセミナーに参加したり、求人情報を読んでいて、英語が必要であるとわかったため、英語の勉強を始めた。応募条件としてTOEICの点数があるため、年明けにTOEICの試験を受けよう計画している。大企業は自社のホームページがあるが、小さい会社は24h.comのような求人サイトで探す。また、機械工学科の掲示板にはたまに採用情報が掲示されている。就職先を紹介してくれるような先生にはまだ出会ったことがない。自分でやるしかない状況。
じさん	エンジニアとして、専門である機械工学の仕事ができる企業に就職したい。具体的には、機械製造、建築関係など。あるいは、もし奨学金が取得できるなら、日本に5年間ほど行ってみたい。留学に関しては、留学コンサルティングセンターで情報を集める。日本では、まず2年間日本語の勉強をし、その後大学で学ぶことになると思う。候補としては、東京工科大学など。両親は留学については、経済的な支援は出来ないが、応援してくれている。		3、4月に各企業が大学に来て、企業紹介、採用活動をする。そこで内定を受ける学生もいるが、少数(卒業生3,400人中2,30人程度)。早期採用をする企業としては、パナソニック、キヤノン、デンソー、サムスンが例に挙げられる。企業紹介の後に、自ら企業を選択し、半月から1ヶ月後に実施される試験(IQテスト、論理数学、専門数学、自らの専門(機械工学と電気)に関して)を受ける。また、ハノイ工業大学では例がないが、例えば、タイグエン工科大学では、企業が奨学金のひもつきで内定者を確保しており、その場合、内定者は一定期間その企業で働かなければならないと聞いた。
くさん	日系企業との合弁外資系の企業に勤めたい。機械工学の専門を活かした仕事に就き、将来はエンジニアになりたい。両親は、地元に戻ってきてもらいたいと言うのではなく、生活自体に発展性が望めるハノイで就職しなさいと言ってくれている。仕事の環境(住宅、食事(昼食)、工場の清潔さなど)を重視して仕事を選んでいる。給料に関してはあまり重視していない。国営企業の場合、自分自身の技術力を高めることが出来ないで、少々不安定であっても外資系企業を選ぶ。第一志望はサムスン、ついでトヨタ(地元から近いところに工場があるため)。サムスンを希望する理由は、インターネットの情報では、工場のきれいさ、清潔さ、そして給料の高さなどの労働環境が良いとされているから。就職できるためには、大学で良い成績(特に英語)を取ることが重要だと考えている。自分にはソフトスキルと英語力(日常会話程度)があると思うので、就職には苦労しないと思う。	2011年4月にコスモスというベトナム私営企業に工場見学に行った。インターンシップ経験はない。自宅から近い(と有利な条件をそろえてくれるのではないかと考える)ため、トヨタでのインターンシップを希望している。	インターネットや、すでに就職している先輩方の話、あるいは学校が主催するジョブフェアから企業に関する情報を得ている。ジョブフェアからの情報が最も多い。大学主催のジョブフェアは4年生当初(10月頃)に始まる。先生方からの紹介はほとんどない(おそらく全体の5%程度)。
しさん	大学卒業後は国家行政機関(科学技術系)に属する部局に就職。母親がそこに勤めており、母の上司に入社しないかと声をかけられたから。また、上司の説明を受けて、将来的な展望を感じたから。他にもインターンシップに参加した食品品質管理コンサルタント会社(私営企業)の仕事などのオファーがあった。当部局には1年半勤めた。日本の政府機関(国際協力系)に転職したのは、初職の仕事内容は好きだったが、管理の仕方が好きではなかったから。母には何も言われなかった。離職後、3ヶ月間おもにインターネットで転職活動をした。ホテルの仕事(サービス業)と栄養食品の研究開発の仕事(友達の紹介)の2つが決まっていたが、母の紹介で、上記の国際協力系機関の仕事に。最初は研究員を目指していたが、合わないと感じ、人と人とが繋がりを作る仕事に向いていると思った。	大学5年生時の卒業研修(11月～1月までの8週間、卒業研究のテーマによって研修先を先生が判断)以外で、短大の時に1回、大学3年生で1回(農産物加工会社、クラス37名全員で5週間)、4年生で1回(ハイズオン省のハイズオンビール、4～5週間、クラスを2グループにわけ、ひとグループはハイズオン省、他はタイビン省へ)。インターンシップ先は先生が紹介。	「就職」の項を参照のこと

周囲の友達	影響を受けた人物	将来展望
<p>親しい友達とは情報交換をする。就職活動開始は、友達の中でもそれぞれ違う。</p>	<p>大学1年生の時の担任の先生。話し方や教え方が上手なので。</p>	<p>いい会社(自らの力に合っていて、人間関係の良好な会社)が見つければ、その会社に長く勤めたい。希望としてはハノイに住みたい。目標としては、大学でいい成績を上げて、いい仕事を見つけて、奨学金を返済したい。</p>
		<p>将来の仕事場に関して、両親は、地元(タイグエン)に帰ってきて、仕事をしてほしいと望んでいるが、もしハノイで仕事が見つかった場合には、それも応援してくれると思う。就職先は、日系企業を希望しているが、日系企業を親会社とするベトナムのローカル企業でもいい。</p>
<p>トヨタなどの日系企業を含む外国企業から奨学金(200万ドン程度)を貰っている学生が、1学科あたり20名ほどいる。</p>	<p>目標とする人物は、今のところいない。</p>	<p>機械設計や機械修理の仕事をしたいという気持ちが強いので、エンジニアを志望している。まず働いてみたいとわからないが、会社の状態や職場環境によっては、転職や起業も考えている。もし条件があるなら起業したいが、現状ではどうなるかわからない。</p>
<p>他の学生も縁故関係が多く、その他、大学の共産青年団が年に1、2回開催するジョブフェアや企業説明会、成績優秀者を対象とした説明会などを通じて就職する。インターンシップでの採用は周りにはあまりない。研究員など、特殊性・専門性の高い仕事の場合は、インターネットでの募集で採用されることもある。大学の先生方は色々な食品加工関係の「企業株」[ママ]を持っているので、優秀な選ばれた生徒はそうした企業に紹介される(非公開)。セミナーを開催する企業と先生方が「株」[ママ]を持っている企業は違う。</p>	<p>計画的なキャリア設計などの点で、学生時代の先輩であり、ソフトスキルを学ぶためのクラブのリーダーに影響を受けた(Lさんも当クラブの次代リーダー)。彼は現在、会社を設立し、社長に。また、現在の仕事先(国際協力系機関)のあるスタッフさんにも、視野の広さなど、影響を受けている。</p>	<p>国際協力系機関でのプロジェクトがもうすぐ終わるため、インターネットや友達を通じて現在求職中。当国際協力系機関には2年半勤めた。NGOや国連関係団体等での仕事を探している。ハノイ工科大学の学歴(大卒かつ技術系)と国際協力系機関での経験があるので、職探しは難しくないと思う。環境を変えたいが、最悪の場合、同機関が実施する別プロジェクトでの求人を探す。</p>

No.	名前	性別	生年	年齢	出身地	家族	学校名	課程	専攻	学年	居住形態
13	Mさん	男性	1991年	22歳	ハノイ市	父:ゲアン省出身。幼少期にハノイへ。商業大学卒。現在は定年。以前は国営企業子会社(生活用品販売)社長。 母:ハノイ出身。短大卒。同会社勤務。 姉2:長女は大卒(IT系)で、ベトナムの北欧系IT会社勤務。次女は、Mさんと双子で、大学(観光系)在学中。	ハノイ工科大学	大学	HEDSPI	4年生	自宅
14	Nさん	男性	1991年		タインホア省ハウロック県(高校進学のため、2006年から父親とハノイ市内在住)	父:1962年生。軍隊で10年程働いた後、地元で農業の仕事をしていたが、現在はハノイ市内に引越し、学校(中・高)の警備員。 母:1964年生。タインホア省の師範短大卒で、現在は小学校教員。 姉1:1990年生。現在は農業大学大学院(修士課程)に在学中。	ハノイ工科大学	大学	HEDSPI	4年生	父親と借家住まい
15	Oさん	男性	1991年		ニンビン省ニンビン市	父:現在50歳くらい。軍隊で10年以上働いた後、退役し、現在は小売業(薬局)。 母:現在45歳くらい。中級専門学校(医療系)卒業で、現在は自宅で開業し、患者の診察。 二人きょうだいの長男で、高校3年生の妹がいる。	ハノイ工科大学	大学	HEDSPI	4年生	大学近くの、父方の叔父の家に住んでいた。
16	Pさん	男性	1991年		タイビン省ヴートゥー県	父は、1954年生まれで、タイビン省の職業訓練高等専門学校(機械系)を卒業し、現在は同学校で教員。 母は、1954年生まれで、外国語師範大学を卒業し、現在は高校の英語教師。 二人きょうだいの長男で、大学(情報通信系)1年生の妹がいる。	ハノイ工科大学	大学	HEDSPI	4年生	大学の寮

出身高校	高校選択理由	高校時の成績	高校進路指導や家族の影響
<p>アムステルダム中高(専科高校、数学専攻)。同級生全員が大学進学。</p>	<p>教育の質が高いため、両親が受けなさいと言ってくれた。</p>		<p>先生から特に指導はなかった。</p>
<p>ハノイ国家大学自然科学大学付属高校(数学専科)。同級生全員が大学進学。</p>	<p>とてもいい高校なので、いい環境で勉強がしたいと思ったから。中学校の時の数学の先生にアドバイスをもらった。同じ中学校(1学年100名程度、高校進学率100%)から5名受験し、2名(男性のみ)合格。そのほか、ハノイ市にあるハノイ国家大学の師範専科高校(数学の専門で)に3名(男性のみ)合格した。文系の生徒はハウロック県の高校(4校)に進学し、化学や物理が得意な生徒はタインホア市の高校に進学した。都市の方が、文系のレベルが高いため、受験しても不合格であった生徒が多いが、理系の場合、都市と地方の差はあまりない。ハノイの高校に進学することはそれほど珍しいことではなく、進学者も増えている。</p>		
<p>ルンバントウイ高校(ニンビン市内の普通高校、数学の専門クラス)。市内トップ校。同じクラスの同級生32名中30名は現役で、残り2名は次年度に大学進学。同学年全体では、約4割が大学進学。</p>	<p>ハノイ市内の高校に進学した同級生も10名程度いたが、ハノイへの進学は、下宿代などかかるため、経済的に難しく、また実家から近いところで勉強したいと思ったから。</p>		<p>特に誰かからアドバイスがあったわけではない。</p>
<p>タイビン専科高校(数学専攻)。有名校。同級生全員が大学進学。</p>	<p>中学生の頃から、数学に興味があったから。同じ中学から、約80%が高校進学。同じ高校に進んだ生徒は他にいない。ほとんどがタイビン県内の高校に進学した。</p>		



名前	高校の友達	高卒後の状態	進学理由
Mさん	同級生(27か29名)のうち、6名がハノイ工科大学に入学。一番優秀だった男子生徒は、高校時から留学し、ハーバード大学に入学。トップ層は、米英仏に留学。その次の層が、国内の、ハノイ工科大学や医科大学に進学する。	高卒後すぐに進学	ハノイ工科大学が第一志望。大学入学以前から、留学したいと思っていたが、留学にはお金がかかるし、奨学金の獲得も難しい。高校生の時、学校の授業でパスカルというプログラミング言語の勉強をし、好きになり、またゲームも好きだったため、IT系の勉強をしたいと思った。家族の影響はなく、自分で決めた。第2志望として、貿易大学の電子ビジネス系の学部を受験しそちらも合格した。大学入学試験では、30点満点中27点獲得した。
Nさん		高卒後すぐに進学	ハノイ工科大学が第一志望。ベトナムで一番有名な理工系大学だと、色々な人が言っていたから。特に母方の祖父(元大学教員(農学系))がハノイ工科大学はとて素晴らしい大学だから、受験しなさいとアドバイスをくれた。他の大学は受験していない。ハノイ工科大学では、2つの学部を受験し、第1志望であった数学に不合格であったため、IT系学部に入学した。大学入学試験では、30点満点中28点獲得した。
Oさん		高卒後すぐに進学	ハノイ工科大学が第一志望。医科大学も受験し合格したが、工学が好きだったため、工科大学入学を選んだ。家族は、医科大学の方を勧めていた。また近年ベトナムでITが流行っており、ITの知識を獲得したかった。大学入学試験では、30点満点中27点獲得した。
Pさん	ハノイ工科大学には、同じクラスの同級生22名中5名が進学。残りの多くは、ハノイにある国民経済大学や貿易大学に進学した。	高卒後すぐに進学	高校の時から、IT系の授業があり、興味を持ったから。第2志望として、医科大学も受験し合格した。両親のアドバイスで医科大学も受験したが、あまり興味が湧かなかったため、工科大学を選んだ。大学入学試験では、30点満点中27点獲得した。また、企業立のFPT大学も、高校3年生の5月に大学独自の試験(筆記試験と面接試験)を受け合格しており(同じ高校からトップ層の10名が受験)、奨学金をもらえることも決まっていたが、ハノイ工科大学を選んだ。

学費・生活費	学校生活	成績	バイトなど
	<p>朝5時半起床、朝食を食べ、6時15分ごろのバスに乗り、30分ほどかけて大学へ。授業は7時半開始。1コマ45分で、午前中は5コマ。昼休みは12時から13時。午後の授業は13時から、4コマ、16時半、17時まで。クラブ活動として、HEDSPIの日本語クラブ(日本語の勉強と日本文化についてのイベント開催など)に入っていた(毎年約30人が入部)。入部した理由は、日本語の先生と接触するチャンスが多く、リーダーシップなど、イベントを行うスキルを勉強したいと自分で考えたから。学生協会(ボランティアのイベント等を行う)にも参加。</p>	<p>HEDSPIで、4点満点中3.3点。</p>	
	<p>朝5時起床、6時に家を出て、6時半に大学到着。6時45分から授業が始まり、午前中の授業は11時50分終了。午後は、12時15分からの授業もあるが、普通は13時開始で、17時45分まで授業がある。その後は、すぐ家に帰る。ときどき学生協会に参加していた(HEDSPIからは6、7名程度)。入学式で先輩が紹介しているのを見て参加することにした。こうした活動に参加している方が、ソフトスキルについて学べるため、就職の際に役立つ。HEDSPIの日本語クラブにも参加していた。たまに同級生と遊びに行ったりする(水の公園や友人の地元)。</p>	<p>HEDSPIで、4点満点中3.53点。</p>	<p>アルバイトはしていない。</p>
	<p>朝5時半起床。授業が始まる50分前に家を出て、自転車で10分かけて大学に。1限目は6時45分開始で、午前中の授業は11時45分まで。午後の授業は13時から17時10分まで。授業終了後、すぐ家に帰り、家事の手伝い。19時半くらいからだいたい1時頃まで自習。自分で勉強した方が効率がいいと思っていたため、クラブ部活動には参加していなかった。</p>	<p>HEDSPIで、4点満点中3.2点。</p>	<p>アルバイトはしていない。</p>
<p>生活費は両親からの仕送りで、月150万ドン。学費は、1単位9万ドンで、日本語の授業については課されない。単位は、1学期に20～30とる。奨学金は継続的にはもらっていないが、大学から支給される奨学金をもらっていた(200万ドンを2学期分)。その奨学金は3種類あり、成績順に応じて、支給額が200万ドン、150万ドン、100万ドンとなっている。HEDSPI参加者で、奨学金をもらっている割合は、授業の難易度が上がっていくことに比例して、1年生が80%、2年生が30%程度となる。</p>	<p>朝6時起床、6時15分に家を出て、6時半授業開始。昼食は、午後に授業がある場合は、大学の近くのお店で食べる。午後の授業は12時10分か13時開始で、18時ごろまで。授業終了後はすぐ部屋に帰る。寮では料理ができないため、外で食べる。HEDSPIの日本語クラブには1カ月だけ参加した。音楽が好きなので、他大学の学生も参加している、音楽のクラブ(ボーカルの)にも参加していた。決まった時間ではなく、やる気が出たときに自習をする。</p>	<p>HEDSPIで、4点満点中3.0点。</p>	<p>アルバイトはしていない。</p>

名前	就職	インターンシップ	企業に関する情報源
Mさん	就職の心配はしていない。ベトナムには、IT系の仕事はたくさんあり、人材不足だから。留学から帰国後、4年間はベトナムの国営企業で働かなければならない。HEDSPIの先輩たちのように、ベトナムに帰国したら、仕事を探し、ベトナム企業で働いた後、日本の企業(日本オフィス)に転職したい。会社を選ぶ際の重要なポイントは、働く環境、すなわち仕事時間、周囲の人の態度など。また、まずは大企業に入りたい。現在、ベトナムのIT系国営企業で人気があるのは、ViettelやEVN(ベトナム電力総公社)、私営企業であればFPTなど。給料は、大卒後すぐで、1000万ドン以上(HEDSPI留学経験者の平均)は買いたい。HEDSPI以外のIT系学部卒業生であればおそらく500万ドン、HEDSPI非留学経験生であれば7、800万ドンくらいになるため、HEDSPIで留学した方が高い給料の仕事に就きやすい。もし可能ならば、大学卒業後すぐに働くのではなく、日本(他の大学)にまた留学してみたい。		ベトナムで国営企業を見つける際は、インターネットで採用情報を調べたり、IT系企業で働いている(アルバイト等)先輩や友人から会社の情報を聞く。友人からの情報を重視する。両親が仕事を紹介してくれる(コネの)可能性はあるが、必要とはしていない。
Nさん	給料はだいたい1500万ドン~2000万ドンはもらいたい。例えば、銀行(MB:ミリタリーバンクなど)のIT系の仕事であれば、給料が高い。また、FPT子会社の国営企業であれば、給料が高い。祖父からの紹介もあるかもしれないが、仕事経験のある先輩の紹介の方を重視する。大学卒業後すぐに就職したい。大学卒業後、6月に会社を調べて、1ヶ月くらい会社で働き、条件が合えば社員として7月頃から働くことができるだろう。ベトナムでそれほど就職活動をしなくてもいいと思う。HEDSPI参加者の方が、就職できる確率は高いと思う。国営企業で4年間働いた後、ベトナムの日系企業に転職し、そこで継続して働きたい。ベトナムに家族がいるし、環境にも慣れているため、日本ではなく、ベトナムで働きたい。希望としては、大規模な会社で、給料が高い会社、もし給料が安くても環境のいい(自分のアイデアが実現できる、上司が優しいなど)会社に勤めたい。ただし、給料が高く、職場環境がより良い会社があれば、米国やシンガポールの企業など、日系企業にこだわらない。日系企業に入りたい人は多い。		自分でインターネットで調べるか、先輩からのアドバイスを聞いて、会社を探す。どちらかと言えば、先輩のアドバイスの方が重要。オフィスの環境、同僚や給料について知りたい。
Oさん	ベトナムにはIT系の企業が多いので、就職先についてはまだ悩んでいる。国営企業であれば、Viettelがいい。もし帰国後すぐにViettelの募集がない場合は、他の企業に応募する。各企業の給料や職場環境を考慮して、決める。Viettelは給料が高く、ボーナスを含めて計算すれば、月2000万ドン。仕事を選ぶ上で、一番重視するのは、仕事の内容が自分の興味に合っているかどうかで、2番目が給料の高さ。もし給料が同じであれば、私営企業ではなく、国営企業を選ぶ。もしViettelで就職できた場合、ずっとその会社で勤めたい。日系企業なら、給料も高く、自分の日本語や留学経験も活かせると思うが、それでも国営企業の方がいい。		Viettelに関しては、今の研究室の先輩(HEDSPI出身者2人)が働いているので、その人に企業の情報を聞く。日系企業に関する情報は、インターネットや先輩から集める。先輩からの情報の方が重要。HEDSPI以外の知り合いはあまりいない。例えば、HEDSPIのメーリングリストから、HEDSPI卒業生の先輩と連絡を取り、話を聞く。
Pさん	まだ就職についてはあまり考えていないが、もし就職先が見つからなかったら、ハノイ工科大学のTAをやりたい。IT系の企業を希望している。しかし、現在の専門分野と関係する仕事ができる企業がベトナムにはあまりないため、おそらく研究者になる。そのため、研究員として科学技術院(国の研究機関)で働くことも選択肢の一つとして考えている。もし科学技術院に入れたら、そこでずっと働きたい。科学技術院は給料が安いかもしれないが、給料が安くても、自分の専門に合っているのであれば、そこで働き続けたい。また、日本とベトナムの合弁会社も考えている。もし自分の専門と関係する会社に入れない場合は、例えば、ベトナムで大変人気があり、大規模なFPTで働きたい。FPTの給料は、おそらく1000万ドン。過去にFPT大学に合格しているが、それが採用で有利に働くことはない(FPT大学出身者は優先される?)。もしベトナムに帰国してすぐに、採用募集がない場合は、1年間ぐらいは待つことができる。その間は、自分のITスキル(プログラミング)をいかして、フリーランスで仕事をする。知り合い(立命館大学のベトナム人の院生)にもそういう働き方をしている人がいる。	夏休みに実施されるインターンシップ(プログラミング言語を使う企業で2ヶ月)に申し込み中。研究室の日本人の先輩に情報もらい、企業について調べ、自分で申し込んだ。同じ研究室の学生はみんなインターンシップに申し込むが、不採用の人もある。先生からの推薦も必要だが、インターンシップ先を大学が紹介してくれるわけではない。ただ、所属する研究室のことはわからない。日本でインターンシップに参加したほうが、プログラミングスキル、コミュニケーションスキル、ビジネス日本語などが上達すると思うので、ベトナムでの就職にいい効果があるのではないかと。	HEDSPI関係者かどうかに関わらず、どういう企業が募集しているのかなどについて、先輩や先生方に直接話を聞きに行くつもり。科学技術院に関しては、そこに勤める父の知り合い(元同僚)から、情報を得て、紹介してもらおうと思う。紹介してもらった際は、お礼として郷土の特産品などの贈り物をする。

周囲の友達	影響を受けた人物	将来展望
	<p>留学先の同じ研究室に所属していた、2つ上の先輩(HEDSPI卒業生)が目標とする人物。彼は、とても優秀で、自ら会社を起業しており、コミュニケーション能力も高く、いつも自信を持っているから。彼のように、起業してみたいと思う。</p>	<p>起業するアイデアも持っているが、まだ決まっていない。</p>
<p>HEDSPIの学生では、日系企業に就職したい人は多い。例えば、人気のある日系企業としては、フラムジャー、オーフォーワンなどのIT系企業がある。この2つの会社に就職する人が、HEDSPIの先輩には多い。NTTなど日本の企業と連携していることから、FPTも人気がある。</p>	<p>大学入学以前に目標としていた人物は特にいない。</p>	<p>ひとつの企業に長く勤めることが嫌になった場合、もしチャンスがあれば、米国の企業に挑戦したい。起業のアイデアもあるが、競争力が低いいため、それよりは大企業で働きたい。日本よりも、ベトナムの方が、友達や親戚も多く、楽しいと思うため、ベトナムで働きたい。</p>
	<p>自分は自分なので、こういう人になりたいというのではない。目標とするのは、留学先の同じ研究室に所属していたベトナム人の先輩。なぜなら、彼は日本に在籍する間に、マイクロソフトのインターンシップに参加し、英語も日本語も上手だから。</p>	

---

JILPT 資料シリーズ No.127

ベトナムにおける工学系学生の職業への  
移行と産学連携に関する調査研究

発行年月日 2013年10月28日  
編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104  
印刷・製本 有限会社 太平印刷

---

©2013 JILPT

\* 資料シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)